

P13c 2MASS による L1630 領域の YSOs 分布

池田 尚史 (名古屋市立大学)、杉谷 光司 (名古屋市立大学)、福田 尚也 (岡山理科大学)

L1630(Orion B) 領域は、活発な星形成であり、NGC2068,NGC2071 などの星形成領域が存在していることが知られている。Lada(1991) は、L1630 で CS 分子輝線を行い、5 つ大質量コアを検出した。さらに、近赤外線観測から星の分布を調べ、大質量コア内に 3 つ大きな YSO クラスタが付随していることを明らかにした。しかしながら、Lada による近赤外線観測は K バンドだけによるもので、J,H,Ks 三色を用いたものではなく、L1630 の北側の一部などを含め全てがカバーしていない。一方 2MASS データを用いた研究では、Carpenter(2000) により L1630 の南側のデータの解析が行われ若い星の分布が明らかになっている。しかしながら、北側の領域では全く解析・研究が行われていない。

そこで本研究では北側を詳細に調査する目的として、2MASS の J,H,Ks を用いて、L1630 の北側の NGC2068(M78) を中心に $1^\circ \times 1^\circ$ の領域で解析を行った。解析では、二色図から YSO 候補を選びだし、Lada(1991) による CS 分子輝線マップ、Maddalena et al.(1986) による CO 分子輝線マップ、Dobashi et al. (2005) による A_V マップと比較した。その結果、YSO 候補の分布は CS 分子輝線マップ、CO 分子輝線マップ、 A_V マップのそれぞれのピークにあたる場所に密集していることが分かった。さらに、今まで知られていない YSO の密集した領域を L1630 の最北端部で発見した。ポスターでは、L1630 の北部での星形成の詳細について発表する予定である。